



第2次能代市総合計画
(後期基本計画)

まちづくり確認書

令和7年3月

能代市

目 次

I	本書の見方	1
II	まちづくり提案書に対する市の対応	
1	元気で魅力あるまち	
(2)	みんなが参加し活躍する地域づくり	2
(4)	気軽に親しみ楽しめるスポーツ	5
2	笑顔で人が輝くまち	
(1)	地域や社会で支える子ども・子育て	7
(2)	次代を担う子どもを育てる学校教育	10
(3)	地域や社会に活かす生涯学習・文化	13
3	豊かで活力あるまち	
(3)	豊かな自然や伝統・文化を活かした観光	16
4	安心で暮らしやすいまち	
(2)	機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク	18
(5)	調和のとれた有効な土地利活用	20

I 本書の見方

基本目標 2 笑顔で人が輝くまち

政策 (1) 地域や社会で支える子ども・子育て

提案項目 1	まちを知るコンテンツの充実
提案に至った現状と評価	提案の内容
市民が能代の地域資源を十分に認識しているとは言えない。その原因として、能代がどのようなまちなのか、意識する機会が少ないことが考えられる。	自分たちのまちが持つ地域資源を理解し、市外の方に能代の良さをPRすることができるよう、市民への情報発信を強化する。 まちづくり提案書の内容を記載しています。

具体案 (1)	対応区分
能代の街のコンシェルジュを育てるための能代市に特化した「〇〇検定」を市が認定し、市民団体や企業が実施する。検定合格者を評価したり、インセンティブを与えることで、より多くの市民に参加してもらおう。また、まちづくり団体等においても、自分たちのまちづくりに特化した検定コンテンツを制作することで、このまちを深く知ることに繋がる。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	具体的対応 まちづくり提案書の具体案に対して、事業化の方向性や課題、考え方等を記載しています。

具体案に対する市の対応について、該当するものに○をしています。

※対応区分

1 次年度対応予定（又は既に対応済み）

⇒次年度に具体案や関係する事業を実施予定（または実施済み）のもの

2 今後対応する方向で検討中

⇒具体案や関係する事業の実施に向けて検討を進めるもの

3 課題や事例等の研究が必要

⇒具体案の事業化に向けて課題が多く、時間をかけて研究を要するもの

4 当面は対応が困難

⇒法律や制度などの制約から行政の関与が難しいもの

担い手や資金の確保などの課題があり、現実的に対応が難しいもの

Ⅱ まちづくり提案書に対する市の対応

基本目標 1 元気で魅力あるまち

政策（２）みんなが参加し活躍する地域づくり

提案項目 1	誰もが参加し活躍できる地域づくり
提案に至った現状と評価	提案の内容
・高齢化を背景に市民活動、ボランティア及び地域活動をする人達が減っている。 ・ボランティアや自治会・町内会への参加人数だけではなく、活動の活性度を上げることが市の活性化につながる。 ・事業者や働き世代、若者、女性等に動いてもらうよう働きかけることが大事であると考え。若者や女性に参加しやすい在り方が求められる。 ・ボランティア・自治会・町内会の減少は、人口減少が進む中である程度やむを得ないものがあるが、それは地域コミュニティや市民生活の低下につながることであり、災害対策としても今後活動を細らせない必要がある。	・市は、若者世代をはじめとする様々な立場の市民が、能代市をどんなまちにしていきたいのか語り合う場やきっかけを設ける。 ・能代市市民活動支援センターの機能を強化するとともに、センターがハブの役割を担い、行政、自治会・町内会、市民活動・地域活動・ボランティア等のまちづくり団体や個人、事業者、働き世代、若者（学生）、女性等、様々な主体をつないで、地域を良くしていくためのアクションを支援する。 市やまちづくり団体等は、能代市市民活動支援センターと協働して地域づくりを推進する。 ・市と能代市市民活動支援センターは、市民の活動がさらに可視化されるような仕組み作りを行う。（例：ボランティアの活動を動画で紹介したり、その動画は学生に作成してもらったりなどする）

具体案（１）	対応区分
市は、若者世代をはじめとする様々な立場の市民が、能代市をどんなまちにしていきたいのか語り合う場やきっかけを設ける。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	市では、まちづくりの指針である第２次能代市総合計画が令和９年度末に終期を迎えることから、新たな総合計画の策定作業を８年度から本格化することとしております。 これまでも総合計画の策定段階で、市民の皆さんとのミーティングを開催するほか、市民協働会議の設置など、市民との対話・市民参加の仕組みを重要と捉え取り組んでまいりました。 新たな総合計画策定においても、市民との対話を重視し、ともにまちづくりを考えることが出来る効果的な仕組みを検討していきたいと考えております。 また、のしろ会議等の民間の取り組みも引き続き支援していきたいと考えております。

具体案（２）	対応区分
能代市市民活動支援センターの機能を強化するとともに、センターがハブの役割を担い、行政、自治会・町内会、市民活動・地域活動・ボランティア等のまちづくり団体や個人、事業者、働き世代、若者（学生）、女性等、様々な主体をつないで、地域を良くしていくためのアクションを支援する。 市やまちづくり団体等は、能代市市民活動支援センターと協働して地域づくりを推進する。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	まちづくりの推進や地域課題解決に向けて、市民活動団体等のネットワークづくりの推進や新たな担い手の発掘・育成に取り組むなど市民活動支援センターの機能を強化し、市民活動への支援を行っていききたいと考えております。 また、市民活動支援センターと市は、市民活動団体や個人等が地域課題等に関し情報交換する場を設けるなど、連携・協働により引き続き地域づくりを推進してまいります。

具体案（３）	対応区分
市と能代市市民活動支援センターは、市民の活動がさらに可視化されるような仕組み作りを行う。（例：ボランティアの活動を動画で紹介したり、その動画は学生に作成してもらったりなどする）	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	現在、能代市市民活動支援センターにおいて、ホームページや市民活動通信へ市民活動の情報等を掲載し周知しております。 市民活動が地域で果たしている役割や効果等、市民の参画意識の醸成や地域づくりの推進につながるような情報提供の手法等について、今後市と支援センターで協議のうえ検討していきたいと考えております。

基本目標 1 元気で魅力あるまち

政策（４） 気軽に親しみ楽しめるスポーツ

提案項目 1	スポーツ参画人口の拡大
提案に至った現状と評価 健康意識の高まりはあるものの、人口減少とコロナ禍の影響もありスポーツ施設利用者数は減少した。 また、スポーツ施設や団体（グループ）の活動などが市民に知られていない。スポーツの定義が人それぞれであり定まっていない状況であると捉えている。 こうした状況を踏まえ、学校開放事業による学校施設のスポーツ利用者数も含め、運動・スポーツに親しんでいる人の実態把握に努めるとともに、簡単な運動・スポーツから気軽に取り組んでもらえるよう呼びかけを行う必要がある。	提案の内容 市民がスポーツ（運動）に親しもうとしても、実際にスポーツができる施設や日々活動している団体（グループ）が十分知られていないため、市民のスポーツ施設利用者数の向上に向けたきっかけづくりを強化する。

具体案（１）	対応区分
市民に一層の関心をもってもらうため、市とスポーツ団体は、スポーツが可能な施設と利用申込みの方法・制度や各団体の活動状況や入会の案内について、広報のしろなどの媒体を活用し、周知を図る。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応 スポーツが可能な施設と利用申込みの方法については、市ホームページで施設一覧を掲載しているほか、令和７年４月に発行予定の市民便利帳にも掲載しております。また、令和７年３月号の広報では、登録スポーツクラブの概要をお知らせするとともに、活動状況を紹介しております。 今後も様々な機会を捉え、周知を図っていきたいと考えております。

具体案（２）	対応区分
市は、学校開放事業があることや、スポーツが健康増進のきっかけとなることなど周知に努める。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	学校開放事業については、登録スポーツクラブの紹介と併せて、令和７年３月号の広報へ掲載しております。また、スポーツクラブの活動状況も紹介しており、今後はホームページ、SNS等を活用し、定期的にクラブ等の紹介を行うことも検討したいと考えております。 引き続き、市スポーツ協会や健康づくり課等とも連携しながら、スポーツや健康づくりに関する教室やイベントを開催するほか、多くの市民がスポーツへの関心を高め、スポーツ参加のきっかけづくりとなるよう、様々な機会を捉え、幅広い情報の提供にも努めてまいります。

具体案（３）	対応区分
事業者等は、従業員等へウォーキングやラジオ体操などを含めて、積極的にスポーツに取り組むよう働きかける。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） 2 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	事業者等が、従業員等へ積極的にスポーツに取り組むよう働き掛けていただくことは、市民がスポーツに取り組むきっかけになると同時に、スポーツ実施率の向上にも繋がるものと考えております。 引き続き、市スポーツ協会や健康づくり課等とも連携しながら、スポーツや健康づくりに関する教室やイベントを開催するほか、多くの市民がスポーツへの関心を高め、スポーツ参加のきっかけづくりとなるよう、様々な機会を捉え、幅広い情報の提供にも努めてまいります。 また、事業者等への働きかけに対しては、スポーツ推進の取組と合わせ、検討していきたいと考えております。

基本目標 2 笑顔で人が輝くまち

政策 (1) 地域や社会で支える子ども・子育て

提案項目 1	地域で安心して子育てができ、子育てに喜びを感じられるまち
提案に至った現状と評価 子どもを産む世代が少なく、出生率が低下している。 子育て世帯は、共働きも多く、経済面だけでなく、精神面・身体面の負担が大きいことから、地域全体で子育てを支援する必要がある。 特に、事業者の取組が重要ではないか。	提案の内容 子育てしやすい環境整備を行い、子育てしやすいまちをPRすることで、若い世代の能代市への定着を図る。

具体案 (1)	対応区分
行政が、給食費や保育所・幼稚園、高校の無償化など子育て世帯への経済的支援を行うことで負担軽減を図る。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応 ○次年度対応予定（または既に対応済み） 給食費については、令和7年度より子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、市立学校の学校給食費の無償化を実施いたします。 ○今後対応する方向で検討中 保育料については、現在、国の3歳以上児の保育料を無償化、すこやか子育て支援事業（県と共同で保育料を助成）により、世帯年収約640万円未満の世帯を対象に0～2歳児の保育料助成を実施しております。 また、市独自で3歳児以上児の副食費を無償化し、子育て世帯の経済的な負担の軽減を図っております。 今後、子育て世帯への更なる経済的支援を図るため、保育料や主食費の無償化を検討してまいります。

具体案（２）	対応区分
事業者は、有給休暇や育児休業の取得を推奨したり、託児室を設置するなどして子育て支援環境を整える。行政は、そうした企業の取組に対する支援を行う。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	○次年度対応予定（または既に対応済み） 事業者の意識醸成を図るため、職場定着に関するセミナーを開催し、子育て支援環境の整備等、働きやすい職場づくりの啓発を引き続き行います。 ○今後対応する方向で検討中 ハローワーク等の関係各機関と連携し、各種認定制度や支援制度等の周知を行うとともに、事業者からの要望をお伺いしながら、新たな支援を検討していきたいと考えております。

具体案（３）	対応区分
病院は、病院内に託児室を設け、保護者や病気の子どもが診察中に、病気でない子どもを預かるなどして、子育て家庭を支援する。	１ 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	病院内での病児以外の子どもの託児については、医療機関との調整や設備等の受け入れ体制の整備が必要である等の課題があることから、先進事例の情報収集などを行い、事業実施の効果等について調査・研究を行いたいと考えております。

具体案（４）	対応区分
地域住民は、急に子どもが病気になったり、保護者に用事ができた際などに子どもを預かるなど、ボランティアとして子育て家庭の支援に取り組む。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	現在、仕事を休めない場合等における病児及び病後児の預かりを行う病児保育事業や、子育ての援助を受けたい人と、援助を行いたい人を会員とする組織により、保育所への送迎や一対一による一時的な預かりなどの助け合いを行うファミリーサポートセンター事業により、子どもの病気や保護者の急用等による一時的な預かりを行っております。 今後も広報や子育て支援アプリにおいて制度の利用について周知していきたいと考えております。

具体案（５）	対応区分
行政は、子育て家庭に様々な支援制度等を更に活用してもらうため、保育所や学校等と連携し、効果的な周知に努めるとともに、子育てしやすいまちをPRする。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	市では保育所や認定こども園の施設長との情報交換会や保護者との意見交換会を実施し、市の施策の周知や子育て支援の要望について、意見交換を行っております。今後も継続して情報交換会や意見交換会を実施するほか、子育て応援アプリの周知、子育て支援策についての出前講座の実施や保育施設を通じてリーフレット等の配布を行うなど、市の子育て支援策について周知に努めていきたいと考えております。

基本目標 2 笑顔で人が輝くまち

政策（２） 次代を担う子どもを育てる学校教育

提案項目 1	地域を愛する子どもたちの育成
提案に至った現状と評価 少子化や人口減少に伴い、地域の結びつきが希薄化している中、子どもの数が少なく、行事の継続が難しいものがある。行事へ参加する親の負担が大きいなどの課題もある。 また、子どもの学力について、質の高い教育環境を整える取組として、特徴的な教育を行うことも考えられる。	提案の内容 地元への愛着心を育み、地域を担う子どもを育成していくため、子どもたちの声を聴きながら、学校を核として地域行事等への参加を促していく必要がある。 また、家庭の事情に左右されることなく、すべての子どもの基礎学力の向上を図るとともに、英語教育など特色ある教育を実施し、充実した教育環境の整備を進める。

具体案（１）	対応区分
市民、各種団体、事業者、行政は、それぞれがＳＮＳ等を活用し、直接子どもの意見や提案を聴きながら取組を進める。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 ④ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	○次年度対応予定（または既に対応済み） 市では、現在策定中の能代市こども計画において、アンケートやワークショップの実施、モニター登録したこども・若者への意見聴取を実施しており、計画へ反映させることとしております。 ○課題や事例等の研究が必要 ＳＮＳ等を活用した、こども・若者への意見聴取の取組については、他自治体における先進事例や活用状況を参考にし、研究したいと考えております。

具体案（２）	対応区分
学校が、地域と連携し、地域行事への参加や、地域ボランティアを活用した授業を行うなどの取組を進めるほか、学校報等を活用して、学校の取組や地域の魅力を発信し、理解を深めてもらう。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	各学校では、地域人材を活用しながら、児童生徒が地域の歴史や文化に触れ、地域のよさに気付いたり、体験したりする活動を、積極的に行っております。児童生徒の学びの成果は、学校報で発信しているほか、児童生徒自ら修学旅行先で情報を発信している学校もあります。今後も、児童生徒主体での発信をさらに進めていきたいと考えております。

具体案（３）	対応区分
行政は、退職した教職員や高校生が、子どもたちの学習支援を行う仕組みを構築する。（長期休業中などの余暇時間の利用、ボランティア活動の仕組みなど）	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	○次年度対応予定（または既に対応済み） 現在、退職した教職員が指導員として授業の支援や、地域のボランティアとして授業のお手伝いをしております。また、教師ミニミニ体験や高校生助手ボランティア等により、高校生が子どもたちの学習支援をする機会が設けられております。 ○課題や事例等の研究が必要 教職員の退職後の働き方や、高等学校の教育課程、高校生の長期休業中の活動等についての現状把握をした上で、先進事例等を参考にしながら、さらに効果的な手法について検討していきたいと考えております。

具体案（４）	対応区分
行政は、先進事例を参考に英語教育に特化した教育を取り入れ、国際的に活躍できる人材の育成に取り組む。（移住者の増加も視野に入れる）	1 次年度対応予定（または既に対応済み） 2 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	現在、各学校には、外国語の教育専門監やALT（外国語指導助手）を派遣して外国語教育の充実を図るとともに、異文化理解の場の設定に努めております。先進事例等を参考にしながら、可能な範囲で、児童生徒がより多く英語に触れる場の創出に向けた検討をしたいと考えております。

基本目標 2 笑顔で人が輝くまち

政策 (3) 地域や社会に活かす生涯学習・文化

提案項目 1	生涯学習・文化の周知
提案に至った現状と評価	提案の内容
生涯学習・文化・民俗芸能に関わる人と学校をつなぐ仕組みを更に作り、地元の子どもたちに興味をもってもらうことが必要である。	子どもたちに地域の祭りや文化、民俗芸能に興味を持ってもらうため、市、学校や自主学習グループ等が連携して取り組みを強化する。

具体案 (1)	対応区分
市は、能代の祭りや民俗芸能をアーカイブ化し、市民が集う場所（イベントや公共施設など）で放映することで、市民への周知を図る。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	祭りに関しては、平成30年度に県の補助金を活用し、天空の不夜城や能代の花火、ねぶながし等の動画を制作するとともに、道の駅ふたついや能代駅など主要な観光施設で放映しております。市民向けに放映することについては、郷土愛醸成や継承の観点から効果的な手法について検討していきたいと考えております。 民俗芸能に関しては、令和2・3年度に能代市民俗芸能連合会の各構成団体等が撮影記録してきた映像を集めて動画共有サイト YouTube においてアーカイブ化し、団体が随時更新、自治体が蓄積・保存していける体制を整備しております。 (URL: https://www.city.noshiro.lg.jp/res/minzoku-geinou/20351) 市民への周知について、YouTube はオンラインでいつでもどこでも見ることができ、個人のスマートフォンでも見られることから、まずはアーカイブの周知に努めていきたいと考えております。

具体案（２）	対応区分
市は、広報のしろなどの媒体を活用し、自主学習グループの紹介を行うことで、地域の歴史や文化の理解浸透に努める。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） 2 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	市では、毎年度公開している「能代市の教育」において、各団体名や活動ジャンル等を掲載し、自主学習グループの周知をしております。 今後は、市ホームページ内の自主学習グループ関連ページ内に、「能代市の教育」が掲載されているページをリンクさせ、さらに周知を図りたいと考えております。

具体案（３）	対応区分
学校は、授業時間の合間等を利用し、アーカイブの映像を放映することで子どもの関心を引き起こし、将来的な地域活動につなげる学習機会の創設に努める。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	各学校では地域学習を重視しており、全ての学校が総合的な学習の時間等で、地域について学んでおります。その学習の際には、地域の歴史や文化等をより深く理解するとともに、地域活動への参画意識の醸成につながるよう、アーカイブ映像の学校での活用の仕方について検討したいと考えております。

具体案（４）	対応区分
各団体は、民俗芸能に興味・関心を持ってもらうため、地域や学校との関わりを継続する。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	民俗芸能団体は、これまでも地域や学校との関わりを深めてきており、現在、イベントにあわせ民俗芸能合同発表会の開催や、向能代小学校において鳥形奴踊り、能代東中学校において檜山舞・道地佐々楽・鰯淵番楽・鶴形ささらの後継者育成事業を実施しております。 市としては、合同発表会開催や後継者育成への支援を継続するほか、地域の枠を超えた広域的な活動や学校との連携についても、機会を捉えながら、支援していきたいと考えております。

基本目標 3 豊かで活力あるまち

政策 (3) 豊かな自然や伝統・文化を活かした観光

提案項目 1	観光の振興と宿泊施設の確保
提案に至った現状と評価	提案の内容
能代特有の地元食材を活かした料理のPR、観光資源の活用が不十分な状態にある。また宿泊施設自体が不足している状態にあり、観光するうえで支障が生じている。加えて、他の地域で宿泊する等経済的損失も発生している状態にあると思われる。	地元食材・郷土料理の発信、認知度向上を図る必要がある。 また、市有地の提供、事業費補助のほか、宿泊施設関連業者の誘致に取り組む必要がある。

具体案 (1)	対応区分
市と事業者が主体となり、食（地元食材・郷土料理に関する）のPRにつながるイベントを開催する。	1 次年度対応予定（または既に対応済み） 2 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応
	「食」は本市の魅力の1つと認識しており、函館市のグルメイベントや銀河連邦イベント、ねぎサミット等の県外イベントに地元業者と共に積極的に参加しております。 市がPRイベントを主催することについては、市外における効果的な場所の選定や参加事業者の確保等、課題が多いと考えており、今後研究していきたいと考えております。

具体案（２）	対応区分
既存の観光資源が十分に活用されていないことから、各種団体、事業者、市が関係機関と連携し、情報交換の場を作る。	① 次年度対応予定（または既に対応済み）
	2 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応 市では、能代山本地域の観光について対応策を協議する「あきた白神観光連絡調整協議会」を設置しているほか、観光協会や観光連盟、あきた白神ツーリズムの会議等の機会を捉えて、積極的に情報交換しております。 具体案にあります既存の観光資源が十分に活用されていないという点についても、効果的な手法や取り組み等を協議会や各団体と研究していきたいと考えております。

具体案（３）	対応区分
市が、既存の宿泊施設の増改築に対する援助を実施する。	① 次年度対応予定（または既に対応済み）
	2 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応 市内で宿泊客室数が不足し、宿泊客が市外に流れている中、宿泊施設の新築・増築、空き物件活用の計画が進められております。このうち、能代駅前の市有地を活用したホテル建設事業へ補助金を交付することとしております。 これらにより宿泊客室数不足の解消となるか注視していくとともに、他市町村の増改築に対する支援やその効果、既存宿泊施設への影響、財政負担等を勘案して研究していきます。 また、国や県の増改築に対する支援もあるため、その活用も促進していきます。

基本目標 4 安心して暮らしやすいまち

政策 (2) 機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク

提案項目 1	安全で機能的な交通体制の確保
提案に至った現状と評価 巡回バスの利用者は増えているが、今後人口減少により利用者の減少も考えられる。路線バスは利用者が減り路線の廃止に歯止めがかからないことが予想される。 また、地吹雪による視界不良箇所が多く、運転に支障がある。	提案の内容 機能的な交通体制の確保、利便性の向上が必要である。

具体案 (1)	対応区分
行政が、バスを必要とする人から目的を聞き、運行ルートや時刻表を作成する。	① 次年度対応予定 (または既に対応済み) 2 今後対応する方向で検討中 3 課題や事例等の研究が必要 4 当面は対応が困難
	具体的な対応 現在路線バスについては、秋北バス(株)が運行しており、利用者の意見、要望を同社に伝達し変更を要望しております。 市委託型の予約制乗合タクシーコサクルやコミュニティバスの運行について、利用者の意見や動向を考慮した上で運行ルートや時刻表を作成しており、今後も多くの方に利用していただけるよう努めていきます。 今後、路線バスや鉄道、市委託の公共交通の情報を統合して発信していくシステムを構築していくこととしており、運行ルート及び時刻表等運行情報の取得の利便性向上を図りたいと考えております。

具体案（２）	対応区分
ＪＲと行政が、東能代駅から能代駅へのスイッチバック実現のため支援を行い、機能的な交通体制を確立する。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	スイッチバックにより能代駅を中心とした公共交通の利便性が格段に向上し、中心市街地の活性化や定住促進に資することが期待できることから、「秋田の未来を創る協議会」とともに実現に向けてＪＲ東日本等への要望活動に取り組んでまいります。

具体案（３）	対応区分
行政が、地吹雪（危険）箇所の確認を行い、防雪柵の増設・改良を行う。また、誘導灯の設置箇所を増やす。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ２ 今後対応する方向で検討中 ③ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	○ 次年度対応予定（または既に対応済み） 地吹雪箇所の確認については、冬期間パトロールを実施し、把握に努めているほか、防雪柵については毎年設置と撤去を行っており、令和６年度からは老朽化した防雪柵の改良に着手しました。 ○ 課題や事例等の研究が必要 誘導灯についてはスノーポールが代替としての役割を担っているものと考えられることから、設置については効果や費用等の検討をしていきたいと考えております。

基本目標 4 安心して暮らしやすいまち

政策（５） 調和のとれた有効な土地利活用

提案項目 1	能代の街のビジョンの見直し
提案に至った現状と評価 ・ 中心市街地には住んでいる人が少なかったり、人が集まらなかったりする。 ・ 空き家対策・取り組みの動きは見えるが、郊外化により中心市街地は衰退の傾向にあり、遊びなどといった目的を持って訪れる人が減少している。 ・ この政策の指標で、全ての目標値を達成しておらず、「不調」と言わざるを得ないが、商業者やまちづくり団体等が様々な取り組みを進めており、明るい兆しも見えてきている。今後能代市をどのような街にするべきか市民でイメージを見直し、それによって政策を実行させていく必要があると考える。	提案の内容 ・ 中心市街地をはじめ、市の様々な地域のまちづくりに関わる人達や団体、行政・事業所などが、能代市をどのようなまちにしたいのか語り合う場を設け、中心市街地の定義も含め市のまちづくりの方向性を見直しする機会を作る。 ・ 市は、まちづくりの最終ビジョンを明確化し、市民全体で目指すゴールを共有して、市民やまちづくり団体が主体的にまちづくりを進める。

具体案（１）	対応区分
中心市街地をはじめ、市の様々な地域のまちづくりに関わる人達や団体、行政・事業所などが、能代市をどのようなまちにしたいのか語り合う場を設け、中心市街地の定義も含め市のまちづくりの方向性を見直しする機会を作る。	① 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	○次年度対応予定（または既に対応済み） 中心市街地については、商工会議所や商店街、市民団体、民間企業、自治会等で構成する能代市中心市街地活性化推進協議会が組織されており、活発な協議がなされ、将来の方向性を示す第３期中心市街地活性化計画が策定されております。 ○今後対応する方向で検討中 まちづくりの指針である能代市総合計画をはじめ各種計画において、市民や関連する団体等、様々な方の御意見をお伺いしながら策定するとともに、その推進を図っております。 今後も、市民や団体等との対話を大切にし、様々な主体がまちづくりに関わり合える効果的な仕組みを検討したいと考えております。

具体案（２）	対応区分
市は、まちづくりの最終ビジョンを明確化し、市民全体で目指すゴールを共有して、市民やまちづくり団体が主体的にまちづくりを進める。	１ 次年度対応予定（または既に対応済み） ② 今後対応する方向で検討中 ３ 課題や事例等の研究が必要 ４ 当面は対応が困難
	具体的な対応
	市では、まちづくりの指針である能代市総合計画において、本市の将来像や目指す姿に加え、各主体に望まれる取り組み等を定めたうえで、各政策を推進しております。 新たな総合計画においても、市民や各種団体等の皆さんに策定段階から参加いただき、本市の将来像や各主体に求められる取組等を共有しながら、策定後の推進も視野に入れた効果的な仕組みづくりを検討したいと考えております。